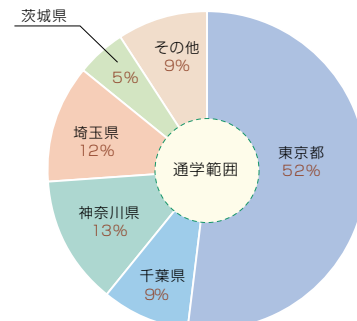
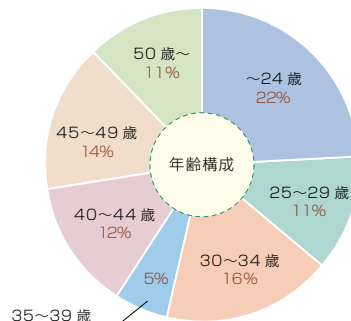
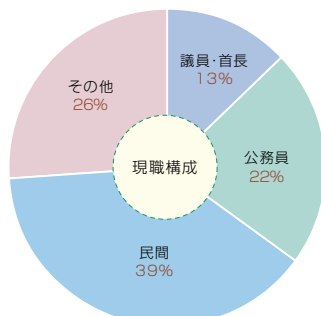
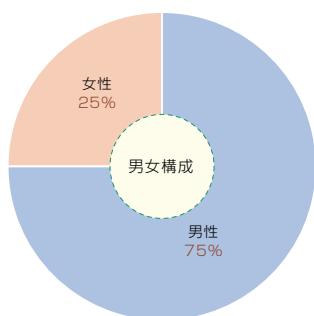


# 在籍者データ・科目等履修生制度

## 在籍者データ

当研究科の学生層は、地方自治体の市長・区長、現役議員、公務員、会社員、NPO関係者、さらには、将来そうした職種に就き社会的課題を解決できる一員となることを希望する学生など多様です。それらの

学生が「ガバナンス研究科」という空間で意見を交換し、知識や情報を集め、直面する政治や行政の課題について、具体的な解決策を創造していきます。



## 科目等履修生（単科生）制度

専門職大学院科目等履修生制度は、生涯学習の推進を図ること等を目的として、社会人等に対する学習機会を拡大する観点から設けられた制度です。本専門職大学院に開設されている特定の授業科目を履修して、一定の単位を修得することができます。ガバナンス研

究科では、正規課程の学生の学修に妨げのない限り、選考の上、特定の講義科目の履修を許可しています。なお、1年間に履修できる単位数の上限は10単位（5科目）です。

## 科目等履修生として入学するメリット

### 1.ガバナンス研究科入学前に実際の授業を体験できます。

本格的にスタートをする前に、科目等履修生（単科生）として実際のガバナンス研究科の授業を受講したうえで、入学を検討することができます。また、実際にガバナンス研究科へ通うことで通学後の生活のイメージをすることにもつながります。

### 2.修得した単位はガバナンス研究科の修了に必要な単位として認定します。

ガバナンス研究科へ入学前に科目等履修生（単科生）として修得した単位は10単位（5科目）を限度として、本専門職大学院の課程修了に必要な単位数に算入することができます。これにより正規生として入学後も時間的に余裕をもって学ぶことにつながります。お仕事が忙しい方には特におすすめです。

### 3.ガバナンス研究科修了後も生涯にわたって授業を受講できます。

生涯にわたってキャリア開発支援を行うため、ガバナンス研究科修了後も授業を科目履修することができます。ガバナンス研究科修了生に限り、通常受講料の約半額（1科目¥31,000円）で受講できます。



**北川 嘉昭**  
(荒川区副区長)

公務員だけ、議員だけ、若手だけといった勉強会は沢山ありますが、様々な立場の人が渾然一体となって学べる場はここだけ。得られた知識とネットワークは生涯の財産になります。



**内藤 達也**  
(国分寺市役所)

少子高齢化や財政危機等により社会経済の両面で急激な変化を迎えています。この時代の自治体経営には様々な政策課題への解決能力が求められるが、それを備え理論武装させてくれるところがここにあります。加えてこのガバナメントには現在も助けられています。



**菊池 宏江**  
(日光市役所)

大学院では、教授から理論を学び、その理論の活用について、市区町村長、公務員、議員、民間の方々との多角的な視点で議論しました。そこで得た知識を多に活用し実務に励んでいます。卒業後もさまざまなネットワークでつながっており、いままも研鑽が続いています。



**片田 保**  
(みずほ情報総研株)

公共経営を専門に仕事をしていますが、もう一度、体系的に学び直すために大学院に通いました。中でも最大の収穫は「人脈」で、各界の多様な人材が学び交流する場が魅力です。修了後も一緒に学んだ仲間たちとの交流は続いていて、今も刺激的な生活を送っています。



**万年 直子**  
(蕨市役所)

自身の知識や感性を豊かにする必要性を感じつつ、気力・体力の面で大学院に通えるか不安を感じている方がいたら、その心配はいりません。ここは知識と意欲の充電源です。



**藤巻 祐一**  
(東日本旅客鉄道株)

実務や海外経験の豊富な教員から学んだ知識とノウハウ、そして、大学院で構築した人脈が、職業人としての人生を豊かなものにしてくれます。この研究科で学んだ知識を活かせる場は、行政機関だけではありません。知識をひろく社会で活用してください。



**久保田 久和**  
(東京都庁)

ガバナンス研究科は、優れた教授陣と充実した学習環境、利用しやすい立地条件が魅力です。仕事では得られない知識と、共に学ぶ仲間とのネットワークなど大きな財産になりました。



**真野 毅**  
(長野県立大学教授、前：豊岡市副市長)

民間企業から公募で副市長に就任し、企業経営との違いについて学ぶために、週末片道6時間を使って通学しました。それぞれの立場を超えた平場の議論を通じて、公共経営の現状と未来像を学ぶことができました。



**津賀 正晶**  
(東京ガス株)

本研究科の魅力は、経験豊富な教授陣のもと、異なった分野の人々が一同に集い、共に議論しながら新しい社会運営の手法を学ぶことです。この場で学んだことが、実践に即生かされています。



**山影 聡香**  
(市川市役所)

幅広い行政のスペシャリストになりたいと思い、入学しました。授業は、新しいことを知る喜びと、知識を吸収する楽しさを感じる充実したものでした。そして、魅力的な教授陣や、仕事も立場も年齢も異なる仲間との出会いは、入学しなければ得られなかった財産です。



**柏山 卓智**  
(厚生労働省)

仕事だけでは得られない知識や出会い。そして、自分はその財産をどのように仕事や社会に活かせるのかを日々模索しています。吸収だけでなく、実践という挑戦が待っている。公共政策大学院の醍醐味がここにあります。



**松下 ゆかり**  
(掛川市立曾我小学校[事務職員])

ここの最大の魅力は、経験豊かな教授をはじめ職種や年齢、立場の違う仲間に出会えることです。また、たくさんの知識や理論を吸収することができず。この研究科で勉強できた2年間は私の財産です。



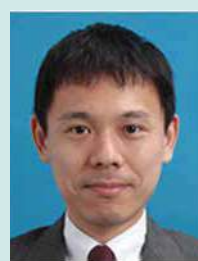
**佐藤 潤**  
(社団法人代表理事)

ボランティアマネジメントが主な研究テーマの私にとり、研究成果を実践されている先生方が多くいらっしゃる当研究科での少人数の講義は大変に充実していました。社会の力、市民の力で社会を変えられる可能性を確信できた、有意義な学校生活でした。



**永田 裕一**  
(株北見ハッカ通商 代表取締役)

北海道からの通学与会社経営の両立は相当な労力でしたが、本研究科で得られた知見は、企業として地域社会にどう関与するのか、大きなヒントを与えてくれました。それらは既に地域組織の運営にも生かされています。



**岩瀬 賢信**  
(森ビル株)

まちづくりは、建物の整備だけではなく、防災・環境・コミュニティ等様々な分野に関わりを持ちます。民間の立場で入学し、公共政策の考え方を学ぶことで、まちづくりを多面的・俯瞰的に考えるいい機会となり、自分の視野が広がりました。公共政策大学院は、民間の立場だからこそ得られるものが沢山詰まっています。





**成澤 廣修**  
(文京区長)

この大学院に來たからこそ区長に当選したと確信しています。政策を学び、志を磨く場所です。そして党派を超えたネットワークも魅力です。防災や危機管理、まちづくり、政策法務などの即戦力の力がつきます。



**松原 忠義**  
(大田区長)

教授陣のメンバーが充実しています。各種職業人として活躍している、やる気のある人々が集まっていますので、人脈づくりには最高です。卒業しても引き続き学べるのが魅力です。



**早坂 よしひろ**  
(東京都議会議員)

初挑戦の都議選は、無所属・最下位落選。浪人生活は、昼間はNPOで働き、夜は奨学金を借りて大学院で学ぶ、とても厳しいものでした。2度目の都議選で、党の公募で当選できたのは、本学で「政策」を身に付けたからです。



**小川 智之**  
(千葉市議会議員)

卒業するのが勿体ないと思えるほどの充実した授業内容と強力な教授陣で、実践的な政策形成能力を高めることができました。卒業後も最新の政策を学び続けられ、素晴らしい仲間も作れたことから、インプット以上のアウトカムを得られたと思います。



**古川 直季**  
(横浜市議会議員)

当研究科の魅力は、何と言っても実務経験のある教授陣と行政職や民間企業、議員などが実例に基づいて、お互いに政策を議論できることにあります。教授や同窓と卒業後も活発に交流できることは、私の財産になっています。



**菅原 文仁**  
(戸田市長)

政策立案できる政治家を目指して入学しました。教授、学生ともに多種多様な出自の方々であり、一線級のプロフェッショナルばかりです。理論と実学をバランス良く学ぶことができる、まさに日本唯一の場がこの大学院です。



**添野 ふみ子**  
(さいたま市議会議員)

多士済々の人達がお志をもって学んでいる事が分かり、励まされました。学んだことをすぐ議会活動と議員活動に活かす事ができるので、多少(かなり)無理をしても通ってよかったと実感しています。切磋琢磨が当研究科の良さです。



**高柳 俊哉**  
(さいたま市議会議員)

自治体議員や議会のあり方が問われている時代。当研究科で得た「生きた知識」や「豊富な人脈」は、今後の活動に絶対に生きてきます。卒業後も様々な形で、学校とのつながりが継続できるのも大きな魅力。ご自身のテーマをさらに深め、政策化していくためにも、ぜひご活用ください。



**田村 たくみ**  
(埼玉県議会議員)

地方分権が進み議会の役割も増大しています。行政の監視や政策立案の能力が問われています。当研究科で学んだことで、様々な事案に対し早急に対応・立案できる能力を磨くことができ、議会活動で生かすことができています。



**亀岡 義尚**  
(福島県議会議員)

本県は地震、津波、そして原発事故、更には風評被害と四重苦との戦いが継続中です。危機管理に強い行政、議会、人材が求められる今、当研究科で学んだ事は、随所に役立つものとなりました。次は復興に向けて更に経験を活かして参ります。



**遠藤 守**  
(東京都議会議員)

ここには、知的好奇心を満たしてくれる優れた先生と、志を同じくする多くの仲間がいます。生涯にわたる知的ネットワークを築きたい皆さん、是非、ご参集を!



**小山 くにひこ**  
(東京都議会議員)

すばらしい先生方や多くの仲間と出会えたことは、何ものにも代え難い人生の財産となりました。この大学院でこそ学べる日本の未来があります。地域主権時代の政策創造の梁山泊こそ、本研究科に他なりません。



**白田 信夫**  
(茨城県議会議員)

私は県議5期で入学しましたが、議員を目指す人はもちろん、議会議員として3期12年を過ぎたら多種多様な仲間、魅力溢れる教授と共に、先入観に問われる事無く自身を見直し、磨き上げる最適の場所です。ぜひ、ガバナンスの扉を叩いて下さい。



**白内 恵美子**  
(宮城県柴田町議会議員)

私は人口4万人弱の町の議員です。4期目当選直後に、情性に流されず活動するには外部からの刺激が必要と考え入学しました。魅力的な教授や仲間との議論から型にはまらない自由な発想を学び、現在は政策提言に力を注いでいます。



**山藪 有理**  
(伊丹市議会議員)

「もっと政策を学びたい! 研究したい!」と考え、研究科の門を叩きました。研究科で学んだ内容をすぐさま政策提言に繋げることや、人脈作りができたことは、自身の強みになったと思います。

## ガバナンス政策研究ネットワーク(卒業生・現役生会員対象)

ガバナンス研究科を卒業した後でも、最新の研究動向や政府・自治体の動きにふれ、またネットワークを維持すると共に、学年を超えた同窓の出会いを生み出す場として「ガバナンス政策研究ネットワーク」を設立いたしました。在学生に限らず、卒業生も、このネットワークを通じて、大学の資源を活用し、政策研究の向上と公共サービスの新しい展開について、学び続けることができます。このようにして公共経営における真のプロフェッショナルとして、社会に重要な貢献を行う人材を育成します。

### 【例年の活動】

- ガバナンス研究科修了生による公共政策研究発表会～その後のガバナンス～  
・例年9月の日曜日午後開催
- David Hutchinson 氏(大ロンドン市環境政策部長)による講演と意見交換  
～ヨーロッパの環境政策、ロンドンの都市政策など～(通訳あり)  
・例年11月の日曜日午後開催
- 『ガバナンス政策研究ネットワーク会報』誌の発行  
・例年2回程度、教員や修了生の研究発表など
- 随時、外部講師による講演会等開催



## 都市政策フォーラム

都市政策フォーラムは、ガバナンス研究科で学ぶ現役生と修了生の「政策研磨」ネットワークで、百数十人が活動しています。現役の政治家・公務員・会社員・社会活動家などのメンバーが自主的に企画・運営し、誰でも公開シンポジウム等を主催したり研究発表できます。

虎ノ門ヒルズ、新丸ビル、東京港、都庁、都議会、茨城県、さいたま市、荒川区をはじめ、各社・各自治体との交流も行っています。最近は、三宅島・伊豆大島復興支援交流や新島訪問も行いました。

また、アメリカ、アジア、ヨーロッパ諸都市への訪問交流なども行っています。

2015年度からは、現役生に対する奨学金給付支援も始めました。

### 【最近行われた主なシンポジウム・討論会】

- 社会企業家のカリスマ、ロザンヌ・ハガティ氏と語る～市民活動の財政力～
- これからのまちづくり～小都市の振興策～
- 政治家による政策討論会
- 東日本大震災と自治体・事例演習会
- 人口減少・少子化と自治体  
～問題の本質は何か
- オリンピックと都市(オックスフォード大学のジョン・ゴールド教授招聘)



## 公共品質マネジメントフォーラム(PQM フォーラム)

公共の主体が行政にとどまらず、民間企業や市民、NPOなどますます多様化するこれからは、公共品質とは何かが問われ、公共品質を維持・向上させるマネジメントの在り方が重要な論点になることでしょう。当フォーラムはこうした論点に着目し、公共分野における品質マネジメントを研究、あるいは実践する者が交流し、公共品質マネジメントに関する新しい知見を創造、探求することを目的として活動しています。メンバーには、国・自治体などの行政機関や公益団体の職員、民間企業社員、議員、研究者などが参画しています。

### 【これまでの活動例】

- (1)公共サービス・マネジメントの研究(行政、民間の研究者を迎えて研究)
- (2)公共サービスの品質マネジメントに関するシンポジウム
- (3)視察研修(沖縄県、北海道、豊岡市など)
- (4)研究会活動(保健師によるガバナンス・マネージャー研究会、協同的公共調達研究会、プログラム評価普及研究会、自治体イノベーションに関する学習会)
- (5)メーリングリスト、ホームページ、SNSによる議論・情報発信



## みんなでガバナンスフォーラム

公共サービスに求めるものが多様化・高度化する社会の中では、多様な主体の協働によるガバナンスのあり方が一層求められてくるのではないのでしょうか。「みんなでガバナンスフォーラム」は、住民や企業、NPO等の多様な主体と行政との協働を通じた新しいガバナンスのあり方を探求し、より良い協治社会の形成を目指して、実践者として貢献することを目的に研鑽を行います。フィールドワークやセミナー等を行う他、一人ひとりの実践に向けて、ファシリテーションやワークショップなどの具体的手法についても学

び合います。2015年度には、外部講師によるファンドレイジングセミナーや新しい学びの場づくりへのチャレンジとして、パーティ形式のプレゼンテーションイベント「ラーニングパーティ」などを開催し、修了生と在校生が楽しく学び合いました。



## 日本の公共政策を世界へ発信する

### イングリッシュ・トラック(英語コース)について

ガバナンス研究科イングリッシュ・トラックでは、授業・演習などすべて英語で行われ、最終的な論文等も英語で提出が求められます。学生の多くは、海外各国の現職公務員や公的機関職員です。このコースでは、地球規模の諸問題に関連する各専門分野のディシプリンを高めるとともに、特に戦後における日本をはじめとする各国の経済発展、政治・行政改革等の事例分析を踏まえ、政府・民間企業並びに市民がどのように社会運営に携わる

べきかといった政治・行政のガバナンスに関わる諸問題の研究を通して、各国の公共政策分野におけるリーダーの養成を行っています。修了者は、社会的課題を分析する能力が養われるのはもとより、政策形成・実施者、国際機関・NGOの専門家等、社会の多様な場において新たな価値を創造し得る人材となって各方面で活躍しています。

詳細については、英語版ガイドブックを参照してください。

### プログラム

#### ①公共政策プログラム

公共政策に関する課題発掘・立案・実施・評価にいたる一連の過程に基づく科目編成を行うことが特色である。具体的な学問領域としては、政治、行政、財政、公共経営、都市政策等がある。

#### ②国際開発政策プログラム

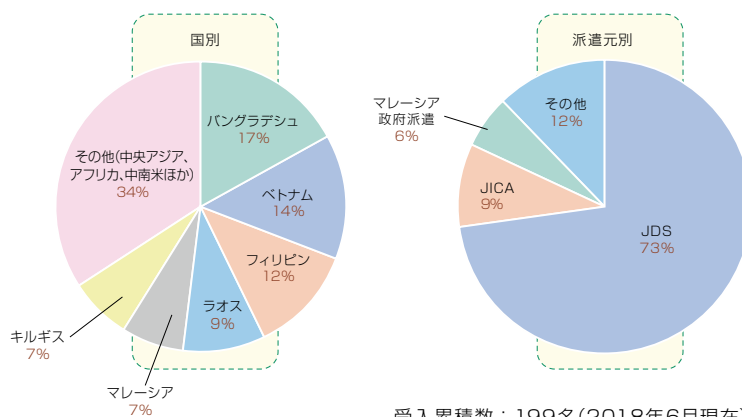
国際開発・経済・環境に関する学問領域から構成され、グローバル・イシューである持続的開発や貧困問題を、政策、経済、システム論といった社会システムの諸側面から捉える。国際開発政策、国際金融システム、環境政策、環境経済、資源管理等の分野を中心とした科目を配置している。

#### ③コミュニティ・マネジメント・プログラム

より地域に密着したローカルな視点でグローバル・イシューを捉え、その解決に向けての政策形成・実施・評価のプロセスに基づき科目編成を行う。学問領域としては、コミュニティ論、地域開発、NPO・NGO論、社会開発、危機管理行政等がある。

### 留学生受入実績

これまで、日本国文部科学省国費、マレーシア政府、世界銀行、インドネシア政府、人材育成無償資金援助(JDS)、JICA(国際協力機構)、ABEイニシアティブ、アジア・シード、ASJA等により派遣される留学生を、2004年より積極的に受け入れています。



### 日英授業

毎年、留学生と日本人学生が合同で行う授業を実施しています。2018年度は政策研究X-D(公共政策:公共経営の今日的動向)が開講されました。

この授業は日曜日に実施される集中授業で、同時通訳を入れ進みます。座学形式の講義だけでなく、フィールドスタディやグループディスカッションも行うことで、留学生と日本人学生の双方の視点から活発な意見交換が行われました。

### 一般学生のイングリッシュ・トラック(英語コース)受入

イングリッシュ・トラック(英語コース)への入学試験を、各年度秋季(9月)入学者のみを対象として実施しています。修了要件のうち、演習科目を除く20単位以上を英語科目で修得することが定められており、入学試験は全て英語で実施されます。

入学試験の詳細は、各年度の秋季入学試験要項を参照してください。

なお、イングリッシュ・トラックの授業は、主に平日昼間に開講しています。



## キャンパス

### 抜群のアクセスを誇る駿河台キャンパス

「ガバナンス研究科」の置かれた駿河台キャンパスは、伝統ある明治大学のまさに本拠地。授業は「社会に開かれた生涯教育の拠点」をコンセプトに2004年4月から稼働を始めた「アカデミーコモン」にて行われます。地上11階・地下2階の校舎に充実した最新設備を備えています。

JR線のほか地下鉄が5線利用可能と、交通アクセスは抜群です。忙しい毎日を送っている社会人も負担なく通学できるロケーションです。



## 院生共同研究室

### ネット時代に対応した院生共同研究室(14号館)

「ガバナンス研究科」の院生共同研究室(自習室)は、全座席にPCコンセントを取り付け、大学院生が常時PCを利用できるよう整備。インターネットによる情報検索や図書館蔵書検索、オンラインジャーナル及び外部データベース検索が自由にできるようになっています。また、ロッカー、コピー、オープン・プリンター・サービスも完備しています。

開室時間 7:00~23:00

### ディスカッションルーム/研究科共用ラウンジ

14号館4階には、グループ学習等に利用できるディスカッションルームや、専門職大学院共用のラウンジを用意しています。



## 留学生交流ラウンジ

### 留学生との交流の場

外国人留学生の学生生活や日本での生活全般についてトータルにサポートしています。留学生と日本人学生、教員の交流の場として広く利用されています。

開室時間 月曜日~土曜日 10:00~18:00

場所 グローバル・フロント2階



## MINDモバイル接続サービス

### 端末を大学ネットワークに接続

MIND (Meiji University Integrated Network Domain) は、教育・研究利用を主な目的とする本学情報ネットワークの総称です。MINDは、国立情報学研究所のネットワークであるSINETと、商用プロバイダであるIIJに接続されており、広大なネットワークであるInternetの一部となっています。MINDへの一時的な接続サービスを利用すると、みなさんが所有するコンピュータを、自宅及び学内に用意しているモバイル用情報コンセントから一時的に大学のネットワーク(MIND)に接続できます。



## 図書館(駿河台キャンパス)

### 120万冊の蔵書を誇る中央図書館

中央図書館(面積12,485、座席数1,286席)は、120万冊の蔵書と4万種の新聞・雑誌をはじめ、電子ジャーナル、電子ブックなどのデジタル資料も充実した、知の宝庫です。OPAC(蔵書検索システム)では、他キャンパスの資料も取寄せ可能で、また、LEXIS-NEXISをはじめとする各種学術情報データベースも自由に利用できます。



## 書籍部

### 三省堂書店明治大学駿河台店

駿河台キャンパス12号館地下2階には、三省堂書店が出店しています。講義に使用する教科書はもちろん、雑誌や書籍など充実した品揃えで、皆さんの学問をサポートしています。明大生は、学生証を提示することですべての書籍が1割引きとなります。

営業時間 10:00~18:00(平日)  
10:30~17:30(土曜)

※夏休みや冬休み等営業時間が変更になる場合があります。



## 学食

### 眺望抜群のカフェテリア形式の学食

リバティタワー17階にある席数367席の、抜群の眺望を誇るカフェテリア形式の学食「スカイラウンジ暁」が利用できます。また、アカデミーコモン1階には飲み物や軽食が楽しめる喫茶店「カフェ・パンセ」もあります。

#### ●スカイラウンジ暁

営業時間 10:30~19:00(平日)  
10:30~17:00(土曜)

#### ●カフェ・パンセ

営業時間 10:00~20:00(平日)  
10:00~16:00(土曜)

※夏休みや冬休み等営業時間が変更になる場合があります。



スカイラウンジ暁

カフェ・パンセ

## リバティアカデミー講座 **MLA**

### ビジネス講座も充実!「明治大学リバティアカデミー」

明治大学の生涯学習プログラム「明治大学リバティアカデミー」では、駿河台キャンパスをはじめとして、和泉・中野・生田の各キャンパス及び黒川農場にて講座を開設しています。

各講座は「ビジネス」・「教養・文化」・「資格・実務・語学」の3プログラムに分かれており、ビジネス講座についても入門編だけでなく、より深いレベルまで学べる充実した内容になっています。受講料も学生は半額になりますので、「明治大学リバティアカデミー」を有効にご活用ください。

